

地域包括 かこがわ便り

平成29年
夏号
VOL.22

なかつ「和っはっは」サロン

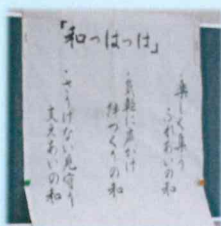
4月に、中津の町内会に於いて新しいふれあい・いきいきサロン、なかつ「和っはっは」サロンが立ち上がりました。

代表者の吉井様にネーミングの由来をお伺いしたところ、楽しく集うふれあいの和・気軽に声かけ絆づくりの和・さりげない見守り支えあいの和の目標3つをあげられ、書の先生の達筆な字に思いをこめられているのが印象的でした。



毎月第1木曜日10時～12時に中津公会堂の場所で開催されています。初日は30名程度の参加を予想していましたが、はるかに上回る73名の方が参加され、老人大学のOBの方のハンドベルの演奏などもあり大変な盛り上がりを見せていました。

中津の地域の皆様が待ちに待っていたサロンということや、その必要性をひしひしと感じ、包括としてもその一助が担えるように努めていきたいと思えます。



いきいき百歳体操

木村町内会でのいきいき百歳体操立ち上げ支援に参加しました。毎週火曜日に開催されており、今回はいきいき百歳体操を実施後にグループワークをしました。いきいき百歳体操を実施してみの感想や、自分がどうなりたいか、続けていくにはどうすればいいか、それぞれのグループで考えておられました。なかには「体操を続けて元気な自分になりたい、継続して続けるには参加者同士の声かけが大事」と、大切な意見がたくさんあがりました。他の地域でもいきいき百歳体操に取り組む場所がどんどん立ち上がっています。



地域ケア会議 地域ケア個別会議

「自宅が老朽化して住みづらくなった方」「親族それぞれに成年後見の申し立てが必要な方」の2つのケースで地域ケア個別会議を開催し、ひとつの機関だけでは対応が難しい課題について、複数の関係機関や地域の方を交えて話し合うことで解決方法を検討しました。行政や社協、介護サービス事業所などの関係者が集まることで支援の方向性が明確になり、民生委員さんなど地域の方ならではの力に助けていただくこともたくさんありました。また、既存の制度だけでは解決できないような課題に対しては、新たな政策をつくりあげていくなど、誰もが住み慣れたまちで安心して過ごしていただけることを目標として、地域ケア会議の開催を今後も積み重ねていけたらと考えています。



地域ケア会議 自立支援マネジメント会議

介護予防・日常生活総合支援事業の開始に伴い、加古川市では、自立支援を重視したケアプランやその支援方法を検討することと、ケアマネジャーの資質向上を図る目的で、医療・介護・福祉などの多職種で事例を検討する自立支援マネジメント会議が開かれることになりました。5月に第1回目の会議を行い、包括かこがわの事例、包括かこがわ西の事例をそれぞれ検討しました。出席の理学療法士・薬剤師の先生から、私たち福祉職では判断ができないことなどを的確にアドバイスしていただき、事例提出したケアマネジャーも大いに納得がいったと晴れ晴れをした様子で終わることができました。年間6回の開催を予定しています。



認知症サポーター養成講座

5月11日「但陽信用金庫 本店」新人職員45名を対象に、認知症サポーター養成講座を行いました。今回は「認知症の方がATMの操作に戸惑っている時の接し方」について、寸劇で悪い対応の仕方をキャラバンメイトが行い、後に新人職員には各グループで話し合っただき実際に対応方法について体験してもらいました。時には笑い、時には真剣に考え、とても前向きに認知症の方への対応を考えておられました。

アンケートの結果、「認知症の正しい知識を身につけ、認知症の方へ接する時は優しく丁寧に接したい」「講座を通して今後の業務に活かすとともに、祖父母にも連絡をとってみます」といった嬉しい感想をたくさんいただきました。



オレンジサロン

今年度から、多くの参加希望者にお応えできるよう、場所を「コープのつどい場」に移しオレンジサロン（認知症予防教室）を開催することになりました。



4月は「認知症を理解しよう！」をテーマで講話を行い、その後、参加者の皆様と話し合いを行いました。一次予防についてお伺いすると「音読」「一人でしとりしながら歩く」「3B体操」等の意見や「予防のためにあえてメモをとらない」などの斬新な意見も聞かれました。また、事例を通しての話し合いでは、「近所との付き合いを大事にする」「声をかけ合う」等の意見が集まり、地域の方への対応

などの理解がさらに深まっているようでした。

5月は、「お薬入門～お薬の基礎知識」をテーマに、かもめ薬局・栗津店の薬剤師・永井先生に講話していただきました。お薬の飲み方について、偽薬（プラセボ）を用いて、散剤・顆粒剤・錠剤・カプセル錠の4種類の正しい服薬方法について実際に参加者も体験していただきましたが、「今まで間違っていた飲み方をしていたわ」などと良い体験の場になりました。



オレンジサロンを通して、学び・共有することで、皆さんの表情も変化され言動もさらに意欲的になられ、参加者同士、終始笑顔の絶えない会となりました。これが認知症予防教室の醍醐味だと考えております。今後もオレンジサロンを通して、認知症の啓発活動とともに、地域づくりの一助となるように努めていきたいと思っております。

介護ほっとカフェ



4月の介護ほっとカフェは、ホームホスピス癒居（ゆい）の方をお招きし、ホームホスピスについて教えていただきました。ホームホスピスは安心して人生の締めくくりができるように最期まで寄り添い、その人らしい生活を支援するところであると知ることができました。自宅にいる感覚で好きなものを食べ、四季に応じた様々な行事に参加されているご利用者の笑顔の写真を見て、参加者のみなさんもお家族やご自身の最期の居場所について考える機会になったのではないかと思います。

加古川民協 研修会

5月26日、「加古川民協高齢福祉部」よりお声をかけて頂き、「頼りになります！地域包括支援センターかこがわ」と「介護保険制度の概要」のタイトルで「地域包括支援センターの役割」「介護保険サービスの利用手順」「介護予防・日常生活支援総合事業」等々のお話をさせていただきました。この4月から介護保険制度の改正で、要支援の認定をもっておられる方の訪問介護と通所介護が加古川市の定めるサービスに変更になったこともあり、いろいろなご意見やご質問をいただきました。今後も地域のお役に立てるように、より良い連携をとっていきたくと思っています。

